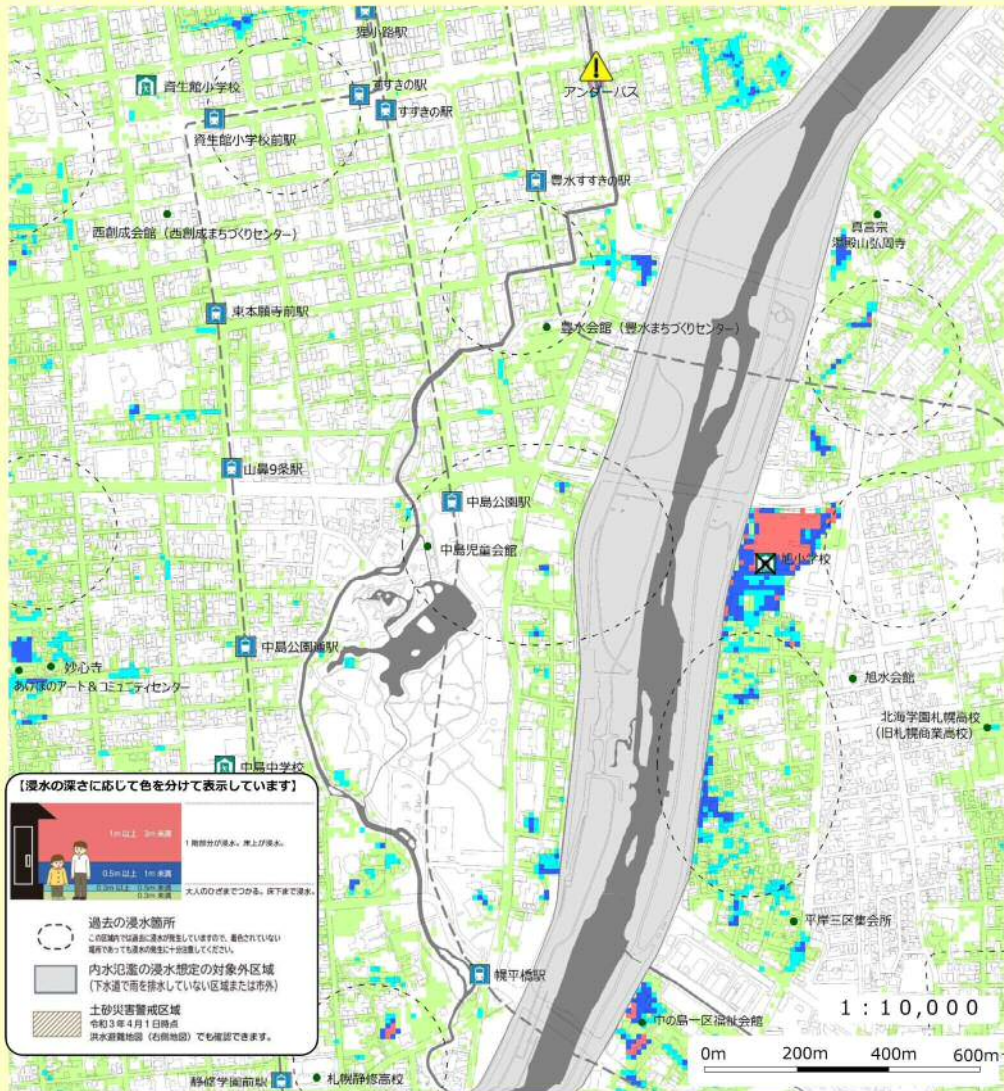


想定し得る最大規模の降雨により想定される浸水区域を浸水の深さに応じて色を分けて表示しています。

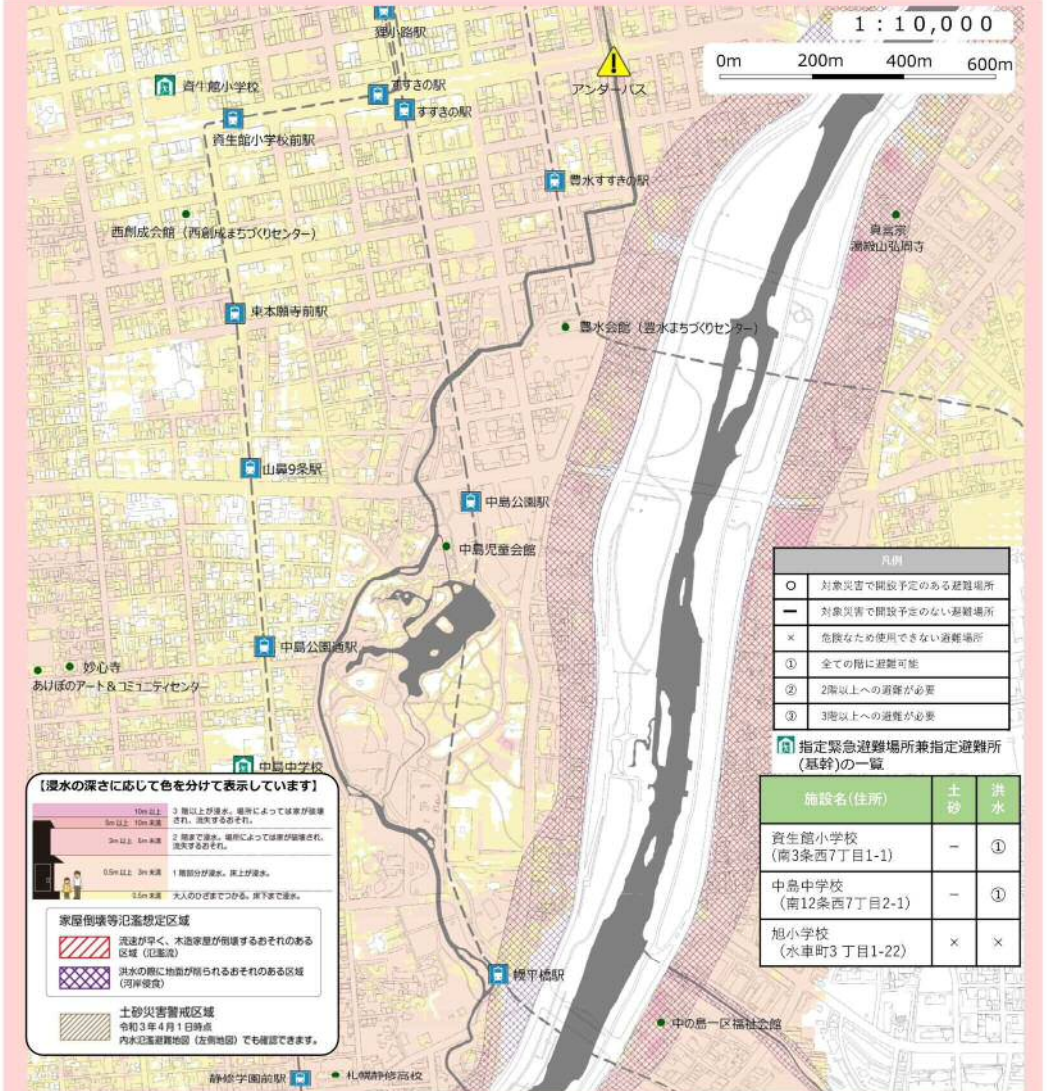
内水氾濫避難地図

▶下水道で雨を排水しきれず発生する浸水を想定



洪水避難地図

▶川が氾濫することで発生する浸水を想定



避難場所の凡例

指定緊急避難場所兼指定避難所(基幹)	指定避難所(地域)
<ul style="list-style-type: none"> 災害から身を守るために緊急的に避難する場所です。災害の種類ごとに指定しています。 災害の危険性がなくなるまで一定期間滞在などする指定避難所(基幹)を兼ねています。 洪水・土砂災害時に使用できません。 	<ul style="list-style-type: none"> 指定避難所(基幹)を補完する施設であり、状況に応じて開設されます。

避難地図の使い方

- 自宅などの位置を確認し、○をつけましょう。
 - 最寄りの指定緊急避難場所(基幹)を確認し、○をつけましょう。
 - 避難経路をいくつか設定しましょう。
- 避難経路設定のポイント**
- できるだけ川や崖の近くは避難経路にしないようにしましょう。
 - 川から離れていても内水氾濫により、浸水する可能性があります。内水氾濫避難地図(左側地図)も見て、できるだけ浸水が想定されない経路を設定しましょう。

自宅などの内水氾濫・洪水・土砂災害の危険度を把握し、避難の方法を確認しましょう。

- 内水氾濫避難地図(左側地図)で内水氾濫の危険度を把握しましょう。
 - A | 浸水の深さより居室が高い。 → はい | いいえ
- 洪水避難地図(右側地図)で洪水の危険度を把握しましょう。
 - B | 浸水の深さより居室が高い。 → はい | いいえ
 - C | 家屋倒壊等氾濫想定区域(河川氾濫/河岸浸食)に入っていない。 → はい | いいえ
- 避難地図(両側地図)で土砂災害の危険度を把握しましょう。
 - D | 土砂災害警戒区域(Ⅱ)に入っていない。 → はい | いいえ
- 避難の方法を確認しましょう。
 - A~Dがすべて「はい」水が引くまでとどまることができ、備えが十分であれば在宅避難が可能です。
 - ひとつでも「いいえ」がある自宅などにとどまることは危険です。避難情報が出た場合や周辺が浸水するなどして身の危険を感じた場合は、速やかに指定緊急避難場所や親戚・知人宅などの安全な場所へ避難しましょう。